

## 「煙草屋さん」

(2002)

一日に一箱、心の健康のために吸っている「ヴァージニヤ・スリム・ワン」だが、なかなか普通の「煙草自動販売機」では販売していないため、いつも10日に一度、10箱入りのカートンを、会社への行き帰りの途中にあるタバコ屋さんで買っていた。余談になるが、このタバコ屋さんがまた大変なのです、80才に近いおじいさんとおばあさんが店にいらっしやるのですが、まず最初に、私が買う件の煙草を、棚の中のかくさんのカートンの中から探し出すのがまず不可能に近いのです。私がいつも「右から3番目のあの“ワンワン(One One)“」・・・と指差して、取り出してもらい、さてその次は、この値段が分からないものだから、難しそうな値段表を調べようとしていらっしやる様なのだけど、これを待っていてはとてもじゃない、日が暮れてしまうので、私が「2600円です」・・・と教えてあげる事になっているのです。さて、もう一つの余談になるのですが、ここで私が、運悪く小銭の持ち合わせの無い時が大変なのです。一万円札を出すと、おじいさんは、五つ玉の算盤をおもむろに取り出して、お釣の計算が始まるのです。いずれにせよ、このタバコ屋さんで「無事に」希望の煙草を手に入れるためには、事前に相当の私なりの心の準備が必要なのですが、今はもうすっかり慣れっになりました。更には、おじいちゃんの時にはだめだけど、おばあちゃんに当たった時は、運良く100円ライターのお土産がつく事もあるので

す。さて、愉快なおじいちゃんとおばあちゃんの前置きの話が長くなりましたが、本題に入らせて頂きます。

先日9月1日、10日に一度の行事、2600円の小銭を準備して煙草屋さんに行く日です。その日はたまたま、おじいちゃんとおばあちゃんが二人とも店にいらっしゃいました。いつもの様に「あ の One」で品物は分かってもらえました、ふとショーケースの上を見ると、綺麗なライター（いつもおばあさんからもらっている100円ライターとは違う、おそらくは200円ライター）付きの二箱入りの「One」（キャンペーン商品）が置いてあるので、これも、ついでに2セットもらう事にしました。さて、そこでお金の予定が全く狂ってしまいました、やむを得ず一万円札を出しますと、早速おじいちゃんの算盤が出てきました。お釣の計算は、私の頭の中ではもうすっかり計算は出来ていたのですが、おじいちゃんの算盤に付き合わなければいけません。先ず買った物の足し算です、その金額を一つずつ、私が言ってあげなければなりません、親切に教えてあげました、2600円、520円、520円……。とにかく、買い物は終わりました。家に帰って早速（別に早速……などと言うほどの大した事ではないのですが）、二箱入りの箱を開けてみますと、「自転車」やら何々プレゼントやら、応募ハガキの様な物やら、が出てきたものですから、早速、興味津々、「ヨシ！やってやろうじゃないか……」と、まず、5日間ばかり溜まっているごみ箱をひ

っくり返して、何とか2箱の空箱を見つけ出し、次に、同じ煙草を吸っている友達に電話して、「煙草の空き箱を、捨てずにとっておいてくれ!」。それよりも何よりの悩みは、自転車にしようか、バックにしようか、フオトラマにしようか・・。

じつくりと読んでいると、何と! 締め切り日が7月25日・・三ヶ月も昔の事、此処で一瞬、考える、自分の怠慢で締め切りに遅れたのではない、今日買った物だ?。そしてもう少し良く考えてみる、買ったものはノートや鉛筆ではない、これは口に入れる物・私にとっては健康の源、味と香りの品物だ。3ヶ月前、いや、締め切り日がそうだから、おそらくは数ヶ月前のタバコだと分かっただけでも気分の良いはずはない。ひよっとして、これは私の誤解なのかもしれないが、タバコと言うものはそんな物(皆んな、数ヶ月ゝ半年以上経ったものを吸っている)なのだといわれればしやうがないが、・・。それについては一步譲るとしても、期限の明らかに過ぎた応募用紙が入っていると言うのは、どう考えても、通常のお客相手の商慣習とはかけ離れているのではないのか。さてタバコには製造年月日、賞味期限たるものがあるのか? 古くなつた品物の回収、及びこれに関する小売店への指導についてはどうなのか?